



TEL 076-611-5155
FAX 076-611-5150
E-mail okshoten@poem.ocn.ne.jp

平成十七年七月二十日
〒九三二〇八〇
高岡市岡屋町四十
有限会社 沖商店発
2015.7.21

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう。』そんなことを皆様と一緒に考えたい。そして皆様の意見を頂きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。

一 宗教は毒か薬か

七日にイギリスの首都ロンドンのど真ん中で同時多発テロが起きました。人的被害は死者五十三名、負傷者七百名に及んだとのこと。

この度のロンドン同時多発テロに限らず、ニューヨーク911テロ、イラク国内における連日の自爆テロ、さらにオーム真理教の地下鉄サリン事件など、どんな思考になれば無防備・無抵抗な者を急襲し殺害するというテロ行為を実行できるのか私には解りません。

現在の社会に協調・同調できず、落ちこぼれて不満を感じ、「こんな社会は改造しなければならぬ。そのためには先ず破壊しなければならぬ」と思っているのでしょうか。あるいはそんな高尚な理論もなく、只、自分の鬱憤を晴らす為だけの行為なのでしょう。

自殺未遂の者に訊くと『死ね、死ね』という声が聞こえた。などという話を聞きます。また、重大な犯罪（殺人など）を起こした者も『やれ、やれ（殺せ、殺せ）』という声が聞こえた。などと言っています。そんな声が聞こえないまでも、重大な事故を起こした者（先日のJR福知山線の脱線事故・羽田空港の日航機事故など）は原因の不明は別にして、その時、常識を逸した精神状態、すなわち一時的かもしれないが精神異常者（きちがい）になっていたと思われま

す。ただ、彼らは個々です、利他的で直ぐ正常に戻ります。ところがテロ実行者は集団です。しかも、各々は自分が精神異常者（きちがい）だとは思っていません。

ん。（もともと、認知症も精神異常者も自覚があればまだ本物とは言えませんが）そして通常の人以上に冷静に行動し、他人に怪しまれることなく、悟られることなく目的を達します。その沈着したるや、常人と比べると、まさに異常と言えます。

彼らも何かの拍子で客観的思考のできる機会に出会えたら、自分の異常に気が着き、通常に戻る者も少なくないでしょうが、残念ながら洗脳（マインドコントロール）されてしまっていますので、自分の精神異常に気がつきません。そして洗脳の裏にはかならず宗教的手段の存在があります。

人類以外の動物には宗教はありません。逆に、人類にはどんな未開な民族にも必ず宗教があります。酒と宗教のない民族はありません。

人間にとって宗教は欠くべからざるものであり、どんな宗教にも頼らず一生を終えてゆく人は、よほど幸せ（＝宗教に頼るほどの苦しみにあわなかったか、不幸（＝自力を超えた力の存在も判らず、人生の醍醐味を味うほどの感情の激しさを経験できない）な人と言えます。

ここで私が宗教を重視し、『目に見えない力』の存在を確信するに至った経緯を披露します。こんなことを書くど妬みを買って、ろくな事がなにかもしれませんが、私の人生は、とても楽しく面白かったです。『またまだそれほどの苦しみ・悲しみに遭っていないからそんな事が言えるのだ』と言われる方もおられますが、少なくとも今日まではそうです。

でも、自分なりに苦勞は克服してきたつもりです。高校卒業後、直ちに入社した家業の沖商店は、倒産直後で、ゼロからではなくマイナスからの出発でした。毎日資金繰りに追われ、あちらこちらから金を借りてくるのが仕事で、生地を売る本来の商売は、その借金廻りの間にしていると言った状態でした。

今から考えてみると、高校卒業直後で何にも判らなかつたから勤まったのであって、普通なら外に勤めに出ていると思います。（もともと、私は縛られるのが嫌いでしたからサラリーマンにはなる気は最初からありませんでした）

私はそんな私達に同情して鼻息してくれる人、そんな私達を蔑んで馬鹿にした人、いろんな人々の心・態度に接し、人情の機微を知らされました。この時この間が私にとって、とても私を勉強させ、成長させてくれた時期だと思っています。

やがて、そんな私に菩薩様が救いの手を差し延べてくださいました。三協アルミの驚異的な発展です。菩薩様は竹平政太郎（三協アルミ創業者）と沖外夫（創業者の長女娘の婿・私の叔父さん）に姿を変え私を経済的に助けてくださいました。まるで試験に耐えた子供に、その親が喜んで褒美をくれるように。ですから、今日、私の周囲にある経済的遺物は、全て私の力に因るものではなく『目に見えない力』の賜物だと思っています。

前号の英語でのスピーチの中で『私は、常々子供たちに「人生においては、何が良いか悪いかわからない。だから迷うような難しい事柄に出会った時は、考えに考え、悩みに悩んで『自分にはもうこれ以上の判断能力がない。だから将来どうなるかと絶対後悔しない』という思い・心境になるまで考えた上で、行く道を選びなさい』と言って来ましたが」と述べましたが、その元は、私自身の高校卒業直後の進路決定に際しての決断の経験によるものだったのです。

こんな事が今日まで数多く重なり、私には何事にも自分の力で成したという観念が少なく、『目に見えない力』のおかげ・賜物という思いが深まると共に、その存在を信じざるを得ない『宗教心』が、私の心にしつかりと植え付けられたのです。

この様に宗教・『目に見えない力』を信じることにより、大きな力を得ることができると信じている私には、他人の大勢の命ばかりか、自分の命まで奪われるというテロ行為に、宗教的手段（洗脳）が利用されていると思うと残念でなりません。

宗教は人間に想像以上の力を与えてくれます。でもそれだけに、その用法を間違える（悪用される）と、宗教というものが良いと思われなくなる時さえあります。『宗教は毒か薬か』。薬であることには間違いありません。しかし、『薬即毒』くれぐれも用法を間違えないようにしなければならぬと思います。

二 日本の国連常任理事国入りについて
今、国連で日本の『常任理事国入り』が、しきりと取り沙汰されていますが、私はこしはばらくは絶対に実現しないと思います。

理由は簡単至極、現在の常任理事国の五カ国とも乗り気ではないからです。拒否権という特権を持つ五カ国が、そう易々と他国に自分と同じ特権を与えようとは思いません。特に、お隣、中国は「隣の貧乏雁の味」とばかり、

自分の権利には関係ないのに、日本の『常任理事国入り』は面白くないのです。妬みふんふんです。

米国はしたたかです。日本の鼻先に『常任理事国入り』というえさをぶら下げ、貢献させるだけさせて（資金を出させるだけ出させて）、その後、自分の子分として絶対服従を誓わせて『常任理事国入り』を恩着せがましく認めることでしよう。

英・仏・ロは何らかの形で日本に貸しを約した上でなければ日本の『常任理事国入り』を認めないでしょう。

これらが全部解決されなければ日本の国連『常任理事国入り』はないと私は思います。ところで、『国連常任理事国』とは何かと言いますと、第二次世界大戦の終戦時に戦勝国として戦い続けた国々です。その戦勝国同士の談合の場から始まっていますから、六十年も経った今日の現状に合わない点も多々あるのですが、特権はいつまでも自分たちだけのものとしておきたいものでしよう。

しかも、戦勝国同士と言っても、英国はドイツに負けそうところを、米国の参戦によるノルマンディー上陸作戦成功以降、戦いを有利にしました。仏国はドイツに負け、占領されていたのを米英両国連合軍に助けられただけです。ロシアは『日ソ不可侵条約』のおかげで対ドイツ戦に専念でき、そのおかげで自国を防衛できた（この間、アメリカから大量の武器が提供されたとのこと）のに、ドイツが敗れ、後顧の憂いがなくなった後、日本が負けることとはつきりした終戦直前に突然、『日ソ不可侵条約』を破って満州に攻め込んできました（火事場泥棒そのものです）。中国は日本に占領されていたのを日本の敗戦で解放されただけです。（しかも、日本に抵抗して戦っていたのは蒋介石だったのに、どさくさ紛れに共産党の毛沢東が乗っ取ってしまいました。結局、勝利は米国のおかげであり、誰も米国には頭が上がらないのです。

今現在も『国際連合』とはいえ、ほとんど米国内で進められています。今現在の国連の運営方針の枠内では、前記した、米国の『したたかな策略』と中国の『妬み』が無くならない限り、日本の国連『常任理事国入り』は実現しないと私は思います。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail Okshoten@poem.ocn.ne.jp
にこにこ通信への意見をはじめ個人宛の連絡は、個人宛のメールでお願いします。